

翔け未来へ

第81号 2020年3月10日発行

発行責任者 保護者の会会長 天谷 祐



「翔け未来へ」

校長 森田 勉

高校三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。また保護者の皆様におかれましては、心よりお祝い申し上げます。

みなさん、昭和第一学園高等学校での三年間はいかがでしたか？ みなさんが三年前に入学してきたときに、私はひとつの課題を課しました。それは、卒業のそのときまでに、本校の校訓である「明るく、強く、正しく」の精神を自分の生き方に落とし込み、自分なりの「明るく、強く、正しく」とは何かを自分の言葉でしっかりと語るができるようになること、という課題でした。全員が今、高校の課程をやり終えて、充実感と達成感を持っていてくれれば、その課題を成し遂げるためにきちんと取り組むことができたとと言えるでしょう。

卒業生のみなさんは、この三年間仲間とともに切磋琢磨したり支え合ったり、褒めたり褒められたりしながら、たくさんのかけがえのない経験をしてきました。その経験を通して、自分を大切にして、そして相手も大切にして、生涯の宝と思える友人をたくさん作る事ができたと思います。

みなさんが生きていく未来社会では、これまでの知識や経験だけでは、解決できない、幾多の困難な問題に遭遇することでしょう。そのようなときにみなさんは、この高校時代に培った友情を糧にして乗り越えていくことができます。すなわち、いつでもどこでも自ら主体的に課題を設定して、仲間とともに対話をしながら協働して解決をはかっていくことができるはずですよ。

何年か後、まばゆいばかりの光を放つみなさんと再会できることを心の底から楽しみにしています。みなさんの前途に輝ける未来があることを強く願っています。



「蒼天」

普通科三学年主任 多田 倫明

高校三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては、心よりお祝い申し上げます。

さて、普通科三学年では、三年間の学年通信のタイトルを「蒼天」としてきました。「蒼天」とは青空を指します。これを用いてよく使われるのが、「雲外に蒼天あり」という言葉です。雲は様々な障害や悩みの意。三年間の中で様々なことに挑戦し、挑戦すればするほど、悩むことも多くなるかもしれません。しかし、その悩みは常にあるものではなく、努力すれば克服でき、その先に青空が広がるはずです。ちよっととした考え方、捉え方一つで道が拓けることもあります。「逃」げずに「挑」む精神を持って日々を過ごしてほしいという意味で、当時の赤井先生が付けたタイトルです。三年たった今、幾多の困難と対峙し、逃げずに乗り越え、自らの努力で進路を切り開いてきた皆さんの「人」として成長した姿に、三学年教員一同嬉しく思っています。きっと、「真つ青」な空が、皆さんを待っています。

令和最初の卒業生が、新しい時代を自ら切り拓き、ますます活躍していただくことを、三学年教員一同は楽しみにしています。卒業おめでとう。



「人とのつながりを大切に」

工学科三学年主任 鈴木 津代志

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。いよいよ旅立ちの時が来ました。高校時代という貴重な三年間、そして受験という高い壁を乗り越えたことは、大きな自信につながることでしよう。これからは、それぞれの目指す未来に向かって羽ばたいていただきたいと思えます。

皆さんと過ごした三年間を振り返ると、様々な事柄に挑戦するエネルギーがシユな姿に、私自身が若返った気分になったことが思い出されます。六クラスのとくさんの個性に触れることで、日々新鮮な気持ちで指導に当たることができました。皆さんに忘れないでほしいことは、毎日変わらず温かく送り出してくださいました保護者の皆様への感謝の気持ちです。

卒業後は大きく環境が変わり、初めての壁にぶつかることもあるかと思いますが、高校時代に培った忍耐力、相手を思いやり協力しあう精神によってそれを乗り越え、逞しく立派な大人に成長してほしいと願っています。

最後になりますが、思春期のお子様へ寄り添って寛容なお心で見守ってくださいました保護者の皆様に、深く感謝申し上げます。改めて、ご卒業おめでとうございます。